

いいね！ 缶詰シロップ飼料化

長崎県西海市の養豚会社SEW大西海ファームは、果実ゼリー国内最大手のたらみ（長崎

甘さこ喜々 豚もりもり

市）と連携し、ゼリーの製造過程で出る果実缶詰のシロップ液をリキッドフィード（液状飼料）に配合して豚に給与してい

経費浮いて 心づきづき

る。豚は喜んで甘い餌を食べ、増体も良好だ。

県農林技術開発センターの畜産研究部門が、糖分の多いシロップ液を利用できることを実証し、両社の協力で実用化した。たらみはゼリーの原料として缶

詰の果実を使っているが、シロップ液は利用できず、諫早市にある工場では年間約4000トンを廃棄していた。

☆☆☆

同センターは、豚の肥育に役立つ糖の含量が約16%と高いことに着目し、2009年に給与試験を実施。肥育の仕上げ期にシロップ液を75%配合した液状飼料を与えた豚と、市販の配合飼料を与えた豚の生産性を比較すると、前者の1日増体量は平

増体効果を確認

長崎県西海市の養豚会社

均111.8kgで、後者より18.2kg（19%）大きかった。肥育日数も1週間、短縮できた。体重や歩留まり、背脂肪厚、ロス長、ロス芯面積などの枝肉成績には見られなかった。同ファームは県内で唯一、リキッドフィードインクシステムを導入。2年前から焼酎かすの飼料化に取り組み、栄養バランスを補う原料を探していた。同センターの試験結果を受けて10年4月、シロップ液の実用化に着手。たんばく質の多い焼酎かすと炭水化物中心のシロップ液、一般飼料の3種類を同じ重量で配合し、栄養バランスを調整することに成功した。

☆☆☆

同ファームは母豚約1280頭で年間約2万7000頭出荷する。諫早市のゼリー製造工場からは、年間約3000トンのシロップ液を無償で引き取り飼料化。同センターの試算では同ファームは年間1400万円の飼料費を削減し、たらみは1200万円の廃棄処分費を浮かせているという。同ファームの内海浩一場長は「シロップ液の利用で肉の締まりや脂肪の甘味が増し、顧客の評判が上がった。輸入飼料の一層の低減に向けて規格外のパレイショなどの利用も検討したい」と話す。